

## プレスリリース

解禁時間: 2010年12月3日(金曜)グリニッジ標準時午前3時

# 気候変動問題に関するレポート: 何も対策を講じない場合、2020年までに500万人の命が奪われる。その大部分は子供である。

- ・ 革新的な「気候脆弱性モニター」は、地球温暖化に対して何の対策も取らない場合、2030年までに年間およそ100万人の命が奪われると発表しました。気候変動に最も脆弱な国々では、今日すでに年間35万人が命を落としています。
- ・ 先進工業国も気候変動の影響を免れることができず、経済的損害の半分以上は、先進工業国が被っています。一つ一つの大きな気候上の圧迫が爆発的に増加し、20年以内に、世界全体で年間3300億ドルの損失をもたらす、危機的状況に陥らせることとなります。
- ・ 気候変動によるあらゆる損害は、すでに利用可能でコスト効率の良い方法で、実質的に防ぐことが可能です。本レポートでは50以上の方法を細かく紹介しています。
- ・ 世界中のリーダーや国民は、「非良心的な不作為」による更なる大惨事の防止に努力しなければなりません。

ロンドン、2010年12月3日。主要な人道的研究団体であるDARA、および気候変動に最も脆弱な国々で構成される「気候脆弱性フォーラム」は本日、気候変動の危機の現状に関する重要で新しいグローバルレポートを発表しました。「気候脆弱性モニター」は、世界184カ国および世界の全地域が、気候変動による短期的インパクトに対して明確に脆弱であることを明らかにしています。ちょうど、現在、メキシコ・カンクンで開催中の国連気候変動サミット(COP-16)では、長期的な温暖化に対処するため、国際的な取引に向けた議論が緩慢に続けられている最中です。

気候変動に関して、主要な国際機関が支援する気候脆弱性モニターは、気候上のインパクトに対する世界各国の脆弱性を、低い、中程度、高い、深刻または緊急を要するというレベルに分けています。本レポートの指標は、健康、気象災害、人間の生活圏の損失、影響を受ける諸部門および天然資源への経済的圧迫という4つの主要な分野において、予測される影響により、各国を評価しています。

気候脆弱性モニターは、2030年までに何らかのインパクトを持つ大規模な危機が世界で300%以上増加すると指摘しています。20年以内に170カ国以上つまり世界の大部分の国々が、地球温暖化と共に、最低一つの主要な気候上のインパクトに対して高脆弱性を持つと予測されます。「気候脆弱性は、世界の運命を握るカギ。」

現在、気候変動によるインパクトの大部分は、高脆弱性の低所得国 50 カ国以上に集中しており、緊急援助が急がれます。本レポートは、サハラ以南のアフリカや東南アジアにおける、気候変動による死者全体のおよそ 80%が子供であり、栄養不良、下痢、マラリアにより死亡することを明らかにしています。異常気象がわずかに増えただけでも、最も影響を受ける脆弱な地域にとっては全面的な打撃となります。今年パキスタンで発生した洪水災害と同じような状況が起きる可能性があります。

気候脆弱性フォーラムを提唱したモルディブのモハメド・ナシード大統領は、次のように語ります：「モルディブは気候変動リスクの最前線に立たされています。従って、我が国の進むべき方向性は常に明らかでした。しかし、今日モルディブで起きていることは、明日、他の国で発生しても不思議ではありません。気候脆弱性モニターは、全世界に明確なビジョンを示す助けとなるでしょう。我が国は 2020 年までにカーボンニュートラルの実現を目指しています。我が国に追隨して再生可能エネルギーやグリーンテクノロジーを採用する国は、21 世紀でも生き残れるでしょう。」

経済的損害の半分は先進工業国が占めており、その中でもアメリカの被害総額は最大です。しかし気候変動は、世界レベルの格差を著しく悪化させるでしょう。経済的損失の総額が小さければ小さいほど、その他で必要となる関連コストがますます大きくなるという事実が、隠蔽されてしまうのは重大なことです。南太平洋地域では関連コストが平均で GDP (国民総生産) の 4%以上に上ります。重大な貧困問題を抱える地域、特にアフリカでは、経済的損害の規模もこれに比例して増加します。死者の 99%以上は発展途上国の人々です。

「プレッシャーを 3 倍かそれ以上に増やさなければ、どれほどの人道的援助や開発援助を行っても災害や破壊的な損害を食い止めることはできないでしょう。数十億ドルの費用を投入しても、気候変動に対して非常に脆弱な国々では惨事による多数の犠牲者が発生します。海拔の低い島々は、もはや存続することができず、消滅してしまいます。代償はみんなで支払わなければなりません。しかも長い時間を要するでしょう。」と指摘するのは、DARA 事務局長であるロス・マウンテン氏です。同氏はコンゴ民主共和国やイラクなど、国連の大規模な現地オペレーションを指揮してきました。

国際的な人間開発の目標は、小児死亡率、飢餓、極端な貧困など気候変動インパクトが最も深刻な地域が抱える問題に対応していないのが現状です。「非常に不適切な」既存の国家計画が示しているのは、最も厳しい気候変動の最前線に立たされている国々への、二酸化炭素の主要排出国による支援を増加させることが、不可欠だということです。

レポートによれば、今日直面しているほぼ全てのインパクトに対して、非常に効率的な対策が既に存在しています。マラリアのような、気候変動の影響を受けやすい病気の蔓延による死亡を予防することは、とりわけ、コスト効率が良い方法です。しかし、必要とされるレベルに近い措置は、とりわけ世界で最も脆弱な地域において、実施されてきませんでした。

英国のジョン・アシュトン気候変動問題特別代表は、冒頭で次のように述べています。「気候変動問題に今対応しなければ、各国の資源競争は激化し、その結果、協力に向けた政治的な余裕が縮小します。気候変動問題は、公平性を侵害しています。なぜなら、問題を引き起こしていない国が、その結果に対して大きな代償を支払わなければならない、その手段も持っていないからです。」

DARA 代表者でありレポートの顧問である、元コストリカ大統領ファン・マリア・フィゲーレスは、次のように言います。「(気候変動による)インパクトの打撃を受けるのは、明らかに貧しい人たちや、低年齢層で、これは均衡を欠いています。世界の全人口の半分は 25 歳未満です。今私たちがいかに問題に取り組むかによって、彼らが受け継ぐ世界の行方が決まるのです。世界中の若者は、気候変動問題に取り組む準備ができています。しかし、リーダーシップを取って低炭素経済への移行を加速していくのは私たちの世代の責任です。」

予測値に多少の高低はあるものの、気候変動のインパクトは過小評価されている可能性が高いとレポートは指摘します。データが不適切であったり、既存の科学調査に限界があったりするため、既知の影響の大部分が適切に測定されていないからです。本レポートは、気候脆弱性の正確な理解を妨げる主要な調査項目を大至急見直すように呼びかけています。それに関わらず、調査結果が「根本的に変わることはない」でしょう。レポートが強調する点は、そこで概要がまとめられている、深刻でなおかつ回避できない危機により、以下の点が明らかに正当化されるということです。つまり何も対策を講じないことは、許し難いことで、温暖化をさらに悪化させるのは、無謀な行為だということです。

- 以上 -

**注意:**

**レポートについて**

レポートのフルコピー(解禁時間:2010年12月3日グリニッジ標準時午前3時)を入手したい場合は、CTRLを押しながら以下のリンクをクリックして下さい。

[CVM 2010 The State of the Climate Crisis.pdf](#)

本レポートに関心をお持ちの場合、また、インタビューもしくは詳細情報をお求めの場合は、以下の担当者までご連絡下さい。  
担当者: James Drewer、電話: 00 44 207 467 9238 / 00 44 7801 151 531 または [jdrewer@daraint.org](mailto:jdrewer@daraint.org)

**気候脆弱性モニターについて**

気候脆弱性モニターは、現在と近い将来において気候変動が世界人口へ与える影響を国際的に評価する独立団体です。活動内容には、気候変動問題に対して適切であり、なおかつ人間、経済、環境へのインパクトを抑える、現在講じることが可能な、いくつかの主要な対策の有効性を見直すことも含まれています。

**DARA について**

DARA は 2003 年に設立された独立人道団体です。紛争、災害、気候変動の影響で苦しむ弱者への支援の質と有効性の改善に取り組んでいます。DARA は、世界の五大陸、40 カ国以上で活動してきました。DARA 代表者ロス・マウンテンは、国連バグダット事務所爆破テロ以降 (2003-2004)、イラク戦争中に国連救助活動を指揮した経験を持っています。

**気候脆弱性フォーラム**

気候脆弱性フォーラム (CVF) は、アフリカ、アジア、アメリカ、太平洋地域の国々による初のグローバルパートナーシップで、気候変動の影響に対して最も脆弱な国々が抱える共通の脅威に対し、一致団結して取り組むことを目的としています。CVF 参加国は、気候変動問題を引き起こした責任がほとんどなかったにもかかわらず、多くの場合、その生存が脅かされています。